

福岡市 総合評価落札方式 実施ガイドライン



令和6年1月

目次

■はじめに	P 2
1. 総合評価落札方式とは		
(1) 総合評価落札方式とは	P 3
(2) 導入の効果	P 4
2. 福岡市の総合評価落札方式の概要		
(1) 総合評価落札方式の型式	P 5
(2) 型式と評価項目・配点の関係	P 7
(3) 落札者の決定方法	P 9
(4) 総合評価落札方式の手続き	P 9
3. 技術評価項目と技術提案書の作成・提出		
(1) 技術評価項目と配点	P 11
(2) 提案項目	P 12
(3) 企業評価項目	P 19
(4) 技術提案書の作成と提出	P 30
(5) 一括審査方式	P 30
4. 中立かつ公正な審査・評価の確保		
(1) 中立かつ公正な審査・評価の確保のために	P 34
(2) 公正な評価の確保	P 36
(3) 評価結果の公表	P 39
(4) 評価内容の詳細の開示	P 40
(5) 評価に係る問合せ等	P 41
5. 提案内容の履行義務・保護		
(1) 提案内容の履行義務	P 42
(2) 不履行時のペナルティ	P 42
(3) 提案内容の保護	P 43
(4) 技術者の配置	P 43
6. その他		
入札公告時に提示する総合評価関連資料について	P 45

■はじめに

「総合評価落札方式」は、公共工事の減少等を背景に過度な低価格競争により生じた公共工事の品質低下が懸念される事態を是正するため平成17年4月に施行された「公共工事の品質確保の促進に関する法律」（品確法）に基づき、価格に加えて品質を含めた総合的な評価により落札者を決定する入札方式として、全国的に導入されています。

本市においては、平成18年度より総合評価落札方式の試行運用を開始し、平成21年6月には予定価格3億円以上の工事に本格導入、以降順次対象を拡大し、平成24年2月からは予定価格1億円以上を対象に実施してきました。

導入から10年目を迎えた平成30年度には、これまでの取組みの成果や課題を検証し、本市の総合評価落札方式の今後の方向性を取りまとめました。この方向性に基づき、令和元年8月には予定価格1億円未満（一部）への対象拡大等を実施し、令和3年1月には一般的になった技術提案の標準案への採用や、更なる透明性の確保として評価方法の見直しを行っています。

本ガイドラインは、本市の総合評価落札方式について理解を深めていただくため、総合評価落札方式に関する基本的な取り決めや技術評価基準、具体的な手続きに関する解説として取りまとめています。

総合評価落札方式は、工事の品質確保に有効であり、導入により様々な効果が現れています。今後も、関係者の意見等を踏まえ、更に総合評価落札方式を本市に適したより良い制度に育てていきたいと考えています。

本市の総合評価落札方式の取組みにご理解とご協力をお願いします。

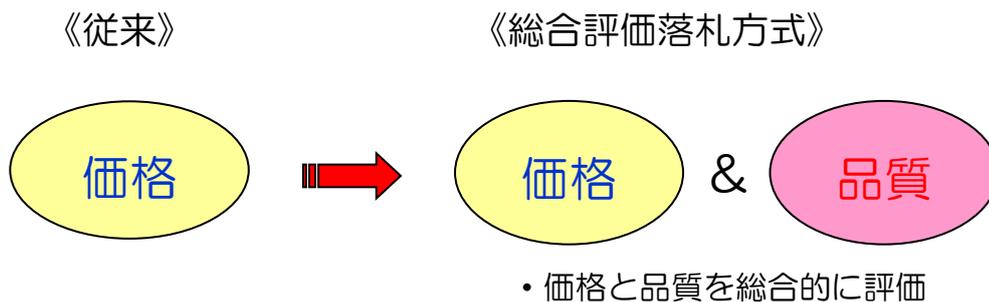
- 本ガイドラインに記載の内容は、令和6年1月1日以降に入札公告する案件に適用していきます。それ以前に入札公告した案件については、従前の基準等によります。

1. 総合評価落札方式とは

1－（1）総合評価落札方式とは

「総合評価落札方式」は、平成17年4月に施行された「公共工事の品質確保の促進に関する法律」（品確法）により導入が進められた契約方式です。

通常の契約では、価格のみの比較により落札者を決定しますが、「総合評価落札方式」では、価格に加えて、品質を含めた総合的な評価により落札者を決定します。



◆ 評価する「品質」

- 「品質」とは、工事目的物そのものもとより、工事の効率性、安全性、環境への配慮等の工事そのものの質も含まれます。

また、工事の「品質」を確保するためには、これまで実施した工事の成績や、同種工事の実績、配置予定技術者の能力、あるいは、当該地域の自然的・社会的条件について熟知していることも必要な要素であると考えています。

そこで、「品質」の評価にあたっては、技術提案などの提案のほか、工事成績や同種工事の経験、社会貢献等の取組等についても対象とします。

（評価する内容）

- ・ その工事に対する新しい施工方法や施工上の工夫などの技術提案
- ・ 工事の品質、安全管理、環境対策に係る施工上の提案
- ・ 下請、資材調達に係る地場企業の活用
- ・ 同種工事の施工実績、工事成績等の企業の施工能力
- ・ 配置予定技術者の資格の保有状況、施工経験
- ・ 災害対策協力、本店所在状況等による社会貢献・地域貢献
- ・ 競争入札参加停止措置状況による企業の信頼性・社会性

など

1－（2）導入の効果

総合評価落札方式の導入により、以下の効果が期待されます。

◆ 導入の効果

- 技術提案等の評価が落札要件となることから、公共工事の品質向上が図られる。
- 技術提案や施工能力等を評価することにより、企業の技術力向上への意欲を高め、ひいては技術力の向上につながる。
- くじ引きによる落札者決定の回避に効果的である。
（同価格入札の場合、技術評価点の高い入札参加者が落札する）
- 価格と品質という2つの基準で評価するため、より談合防止に効果がある。

など

2. 福岡市の総合評価落札方式の概要

2-（1）総合評価落札方式の型式

総合評価落札方式においては、別途定める「総合評価落札方式型式選定表」に基づき、主たる工種や工事内容等に応じて、WTO型、Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかの型式を適用します。

① WTO型

WTO政府調達協定の適用工事を対象とします。海外企業も入札参加するため、過去の実績等の一部の企業評価項目は設定せず、技術提案など当該工事に対する提案等により、「品質」の評価を行います。

② Ⅰ型

技術的工夫の余地が大きい工事に適用し、技術提案などの提案、企業の施工能力や配置予定技術者の能力等により、「品質」の評価を行います。

③ Ⅱ型

技術的工夫の余地が比較的小さい工事に適用し、施工上の基本的事項に関する提案、企業の施工能力や配置予定技術者の能力等により、「品質」の評価を行います。

④ Ⅲ型

技術的工夫の余地の小さい工事に適用し、企業の施工能力や配置予定技術者の能力等により、「品質」の評価を行います。

対象工事に適用する型式は、「総合評価落札方式型式選定表」を基本として選定しますが、工事の特殊性などによりこれにより難しい場合は、別途、型式を選定する場合があります。

■総合評価落札方式型式選定表

業種	主たる工種、工事内容等	3億円以上	3億円未満 1億円以上	1億円未満
一般土木 管2種	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構造物築造工事（トンネル、橋梁、ポンプ場等） ・ シールド工法及び推進工法による管渠工事 	W T O 型 又 は I 型	I 型	II 型 （ 予定価格 7千万円以上 ）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構造物設置工事（L型擁壁、カルバート、護岸ブロック等） ・ 開削工法による管渠工事 ・ 管更生工事 ・ 電線共同溝工事 ・ 構造物補修工事 		II 型	—
管1種	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管渠工事 		II 型	—
港湾土木	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浚渫工事、構造物の新設および改良工事 		II 型	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構造物の補修工事 			
P・C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構造物の新設および改良工事 		II 型	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・ // 補修工事 			
ほ装	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舗装の新設および改良工事 		II 型	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・ // 補修工事 			
造園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園等の新設および改良工事 		II 型	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・ // 補修工事 			
建築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物の新築、増築および改築工事 ・ 高層建築物の外壁改修工事 		I 型	II 型 （ 予定価格 8千万円以上 ）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物の内部改修工事、中低層建築物の外壁改修工事 		II 型	—
解体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物の解体工事 		II 型	—
機械	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備の新設工事 		II 型	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・ // 更新工事 			
管	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備の新設工事 		II 型	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・ // 更新工事 			
電気	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備の新設工事 		II 型	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・ // 更新工事 			
電気通信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備の新設工事 	II 型	—	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ // 更新工事 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的物の新設および改良工事 	II 型	—	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ // 補修工事 		—	

※ 上記に設定のない工事や工事の特殊性などにより、対象工事に適用する型式が上記により難しい場合は、財政局技術企画課と協議の上、別途、型式を決定するもの。

2- (2) 型式と評価項目・配点の関係

① 技術評価項目の区分

「品質」の評価項目（以下「技術評価項目」）については、大きく以下のように区分します。

◆ 技術評価項目の区分

【提案項目】

- 技術提案 : 工事目的物の性能・機能の確保や品質管理、安全管理、周辺環境への配慮等の施工技術に関する提案
- 施工上の提案 : 工事の品質、安全管理、環境対策に関する施工上の提案
- 地場企業の活用 : 下請や資材調達における地場企業の活用に係る提案

【企業評価項目】

- 企業の施工能力 : 工事成績の実績、同種工事の施工実績など
- 技術者の能力 : 配置予定技術者の資格の保有状況、施工経験
- 社会貢献・地域貢献 : 社会貢献優良企業の認定状況、災害対策協力、本店所在状況
- 企業の信頼性・社会性 : 競争入札参加停止措置状況

② 技術評価項目・配点の設定の考え方

各工事の「落札者決定基準」となる技術評価項目や配点の設定の考え方は、以下のとおりです。

◆ 技術評価項目・配点の設定の考え方

- 技術評価項目・配点について、より技術的工夫の余地が大きい大型案件等は、「提案項目」を重視した構成とし、簡易な工事や少額の工事については、「企業評価項目」を重視した構成とします。
- 個別工事の技術評価項目・配点は、学識経験者で構成される「福岡市総合評価技術委員会」での審議を経て決定します。

③ 各型式と評価項目・配点の関係

各型式の技術評価項目と配点（加算点）を整理すると、以下の表のとおりとなります。

■各型式と評価項目・配点の関係

区 分		技術評価項目	型 式			
			WTO型	I 型	II型	III型
提案項目	技術提案	性能・機能の確保 品質管理、安全管理、 周辺への配慮等の 施工技術に関する提案	○ (提案4問)	○ (提案1～4問)		
	施工上の提案	品質管理、安全管理、環境対策 に関する施工上の提案			○ (提案2問)	
	地場企業の活用	地場企業への下請計画 地場企業からの資材調達計画	○	○	○	○
企業評価項目	企業の施工能力	工事成績、同種工事の施工実績、 品質管理、安全管理等	○	○	○	○
	技術者の能力	資格の保有状況、 同種工事の施工経験	○	○	○	○
	社会貢献・ 地域貢献	社会貢献・政策貢献、 災害対策協力企業、 本店所在地		○	○	○
	企業の信頼性・社会性	競争入札参加停止措置状況	○	○	○	○
配点（加算点）			61～64	22.0～57.0	18.0～23.0	12.0～17.0

なお、I型の設問数については、工事内容等に応じて設定します。

2－（3）落札者の決定方法

① 総合評価の方法

- いずれの総合評価の型式（WTO型、Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型）においても、除算方式と呼ばれる以下の算式により評価値を算出します。この「評価値」の最も高い者が、落札候補者となります。

$$\text{「評価値」} = \frac{\text{技術評価点（標準点＋加算点）}}{\text{入札価格}} \times \alpha$$

（※「入札価格」は、入札説明書等に示す「入札金額」と同じ。以下同じ）

- 「標準点」は、入札参加資格及び設計図書等の最低限の要件を満たす入札参加者全てに100点を与える。
- 「加算点」は、「品質」の評価により、型式に応じて0～64点の範囲で加点
- 算出する評価値は小数第4位（小数第5位以下切り捨て）までとする。
また「 α 」は数値調整のための係数であり、以下のとおり
 - 予定価格10億円以上の場合、 $\alpha=1,000,000,000$ （10億）
 - 予定価格1億円以上10億円未満の場合、 $\alpha=100,000,000$ （1億）
 - 予定価格1千万円以上1億円未満の場合、 $\alpha=10,000,000$ （1千万） など

② 落札候補者の決定方法

- 入札価格が予定価格の制限の範囲内であり、評価値の最も高い者を落札候補者とします。

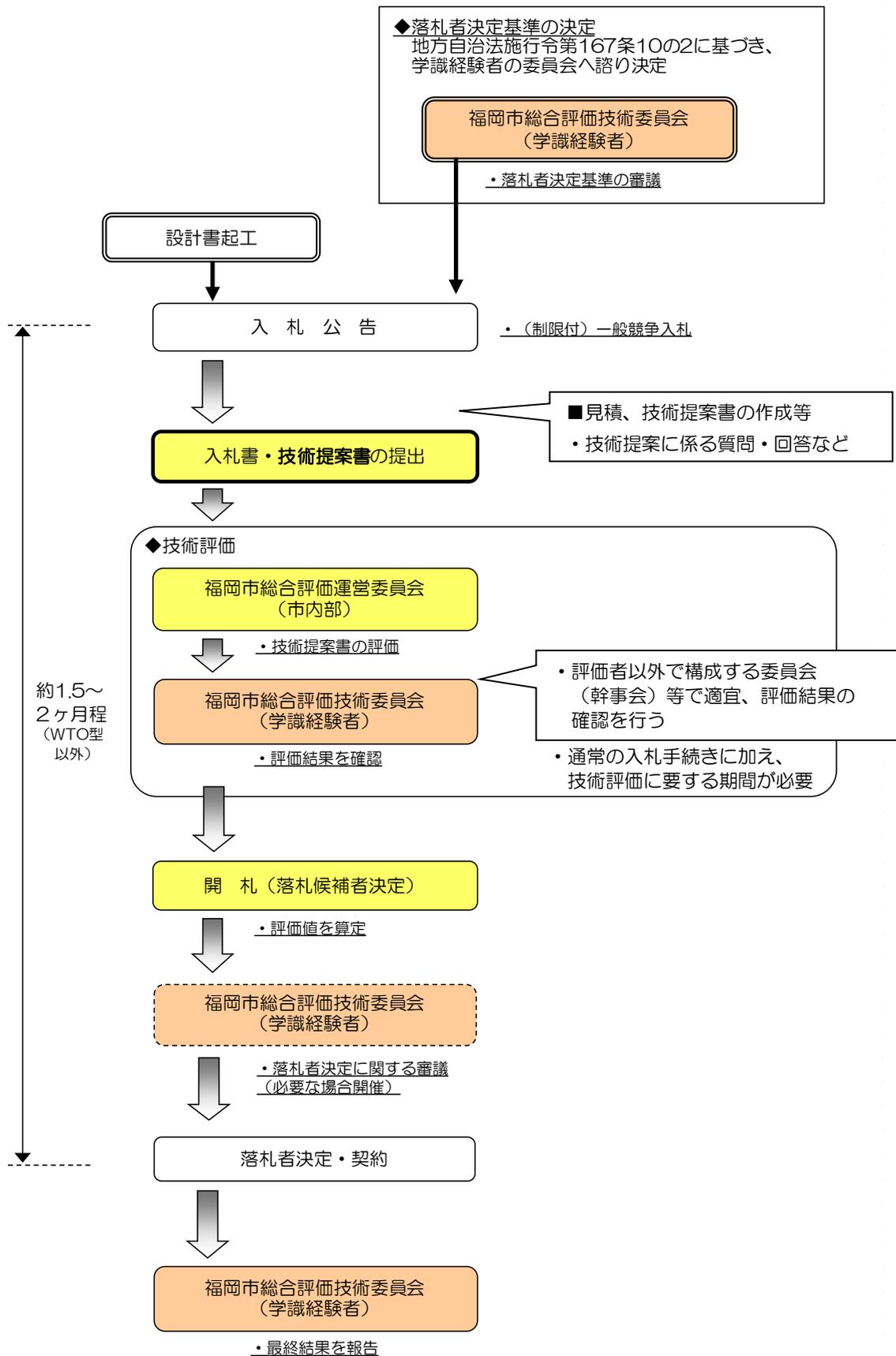
なお、評価値の最も高い者が2者以上あるときは、くじにより落札候補者を決定します。

2－（4）総合評価落札方式の手続き

総合評価落札方式の契約手続きは、通常の契約手続（一般競争入札）に加え、入札参加者の技術提案等を評価する期間が必要です。

また、入札参加者においても、技術提案書の作成・提出が必要となります。

総合評価落札方式による契約手続きフローは、以下のとおりです。



3. 技術評価項目と技術提案書の作成・提出

3-1 (1) 技術評価項目と配点

各型式の「技術評価項目」及び配点は、以下の表を基本としますが、個別工事に係る評価項目・配点は「福岡市総合評価技術委員会」(学識経験者)での審議を経て決定します。

■技術評価項目一覧(基本)

分類	技術評価項目		型式別配点							
			WTO型		I型		II型		III型	
提案項目	技術提案	<ul style="list-style-type: none"> 性能・機能の確保に関するもの 品質管理 安全管理 周辺環境への配慮 その他(施工上配慮すべきこと) ※上記より各工事で留意すべき事項について設問	○	4問 設問 (1問15点) 60	○	1~4問 設問 (1問10点) 10~40	-		-	
		施工上の提案 (品質管理、安全管理、環境対策)	-		-		○	2問 (1問3点)	-	
	地場企業 の活用	地場企業への下請計画	△	1	△	1	△	1	△	1
		地場企業からの資材調達計画	△	1	△	1	△	1	△	1
提案項目の配点		小計	60~62	小計	10~42	小計	6~8	小計	0~2	
企業評価項目	企業の 施工能力	工事成績の実績	-		○	4	○	4	○	4
		工事成績優良業者の表彰実績	-		○	1	○	1	○	1
		同種工事の施工実績	-		○	1	○	1	○	1
		受注工事件数 (本市発注工事)	-		△	1	△	1	△	1
		品質管理への取り組み (ISO9001取得状況)	△	1	△	1	△	1	△	1
		建設業労働災害防止協会加入状況	-		△	1	△	1	△	1
	の技術 力者	資格の保有状況 (監理技術者資格の保有期間など)	○	1	○	1	○	1	○	1
		同種工事の施工経験 (現場代理人、主任技術者の経験も含む)	-		○	1	○	1	○	1
	社会貢献・ 地域貢献	社会貢献・ 政策貢献・ 社会貢献・ <ul style="list-style-type: none"> 障がい者雇用促進事業 環境配慮型事業所支援事業 次世代育成・男女共同参画支援事業 協力雇用主支援事業 消防団協力事業所支援事業 ふくおか「働き方改革」推進企業認定事業 Well-being及びSDGs推進事業 地域活動貢献企業認定事業 	-		○	2	○	2	○	2
		災害対策協力企業 (防災活動に関する協定の相手方)	-		△	2	△	2	△	2
		本店所在地 (本市名簿登載期間で評価)	-		○	1	○	1	○	1
	信頼性・ 社会的 性	企業の 競争入札参加停止措置状況	○	-2	○	-2	○	-2	○	-2
	必須項目(○)配点			1.0		11.0		11.0		11.0
	選択項目(△)配点/項目数			1点/1項目		1~4点/4項目		1~4点/4項目		1~4点/4項目
企業評価項目の配点		計	1.0 ~ 2.0	計	12.0 ~ 15.0	計	12.0 ~ 15.0	計	12.0 ~ 15.0	
合計		計	61 ~ 64	計	22.0 ~ 57.0	計	18.0 ~ 23.0	計	12.0 ~ 17.0	

※1 「○」は必須項目、「△」は選択項目

3- (2) 提案項目

① 技術提案

技術提案は、「WTO型」及び「I型」で対象となり、1～4問設定します。
その工事に対する新しい施工方法や施工上の工夫等を求めることにより、
民間企業の優れた技術力を活用し、工事の品質向上を図ります。

技術評価項目	求める内容	最大配点	配点区分	回答様式	
技術提案 (WTO型、 I型で必須)	性能・機能の確保に関するもの	WTO型 1問15点 I型 1問10点	WTO型 ※4問設定 1問15点(3点×5提案) 【提案毎5段階】 A:3.00 B:2.25 C:1.50 D:0.75 E:0.00 I型 ※1～4問設定 1問10点(2点×5提案) 【提案毎5段階】 A:2.00 B:1.50 C:1.00 D:0.50 E:0.00	様式3	
	品質管理				工事目的物の性能・機能を確保するための施工上の工夫 など
	安全管理				品質管理の実効性を高めるための施工上の工夫 など
	周辺環境への配慮				安全管理を図るための施工上の工夫 など
	その他				騒音・粉塵防止のための施工上の工夫 など
	施工上の想定される課題に対する施工上の工夫 など				

(求める提案の具体例)

- ・ コンクリート躯体のひび割れ防止策
- ・ 下水道推進工法における急曲線部等の確実な施工方法
- ・ 機器の維持管理性の向上(電気・機械設備など)
- ・ 施工中の近隣住民への配慮(騒音等の防止策)
- ・ 施工中の一般交通車両、歩行者等への配慮 など

② 施工上の提案

施工上の提案は、「II型」で対象となり、2問設定します。
公共工事を実施する上で、重要である「品質管理」、「安全管理」及び「環境対策」について、発注者側があらかじめ特定する場面において、「最も注意すべき事項」と「具体的な対応策」を求めることにより、より適切かつ確実な施工を実現し、工事の品質向上を図ります。

技術評価項目	求める内容	最大配点	配点区分	回答様式	
施工上の提案 (II型で必須)	品質管理	II型 1問3点	【最も注意すべき事項】 ○:1.0 ×:0.0 【具体的な対応策】 ○:2.0 △:1.0 —:0.0 ×:0.0	様式4	
	安全管理				品質管理について、最も注意すべき点と、その対応策
					工事関係者に対する事故防止について、最も注意すべき点と、その対応策
					第三者(人・物)に対する事故防止について、最も注意すべき点と、その対応策
	環境対策				

(求める提案の具体例)

- 「コンクリート工」における品質管理について、工事目的物の品質確保の観点から、最も注意すべき事項と、具体的な対応策
- 「掘削工」における安全管理について、工事関係者に対する事故防止の観点から、最も注意すべき事項と、具体的な対応策
- 「舗装工」における安全管理について、第三者（人・物）に対する事故防止の観点から、最も注意すべき事項と、具体的な対応策
- 「工事現場周辺」における環境対策について、騒音・振動・粉じん等の影響の観点から、最も注意すべき事項と、具体的な対応策

上記のように「 」内の場面を特定し、品質管理、安全管理及び環境対策に係る提案を求める。

「提案項目」(技術提案・施工上の提案)に関する技術提案書作成上の留意点は、以下のとおりです。

◆ 「提案項目」の提案作成上の留意点（共通）

- 提案が加対象となる場合、履行義務が発生します。また、提案内容の設計変更は原則として行いません。特に、入手困難な特殊な資機材を使用する提案等を行う場合は、十分留意の上、提案を行って下さい。
- 設計条件や現場状況等を考慮し、提示される着目点等を踏まえた標準案（設計書・仕様書、関係法令に基づき行うべき内容）を上回る提案（追加提案）を記載して下さい（諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」、「標準案とする提案一覧」で要確認）。
- 提案内容は、履行の確認ができるものとし、具体的に記載して下さい。
- 標準案に基づき施工を行う場合においても、施工する内容を具体的に記載して下さい。具体的内容が記載されていない場合は、「欠格」となります。
- 技術提案書の評価は、提出者名を伏せて行うため、提案内容に提出者が特定できる内容を記載しないで下さい。記載がある場合、該当箇所を消去し評価するため、本来の評価が得られず、低い評価点となることがあります。

■ 提案者が特定できる事例

- 提案者が特定できる工法名（特許番号なども）等を記載
- 提案者が特定できる施工実績（工事名、発注者等）を記載
（博多湾大橋新設工事（福岡市発注）、などの表現）

- 評価にあたっての諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」で必ず確認して下さい。

上記のほか、WTO型やI型で求める「技術提案」やII型で求める「施工上の提案」においては、それぞれ以下の点に留意して下さい。

◆ 「技術提案」の提案作成上の留意点（WTO型、I型）

- それぞれの提案については、以下のとおり審査を行います。
また、以下の審査に加えて、**基準に基づいた絶対評価**により評価区分A～Eの段階評価を行います。

- ○ : 追加提案（加点対象。履行義務あり）
- △ : 着目点を踏まえているが、標準案の範囲に留まる提案
（加算点なし。履行義務なし）
※「標準案とする提案一覧」を含む。
- — : 着目点を踏まえていない、「追加提案」としない提案（P16参照）に該当する、履行の具体性や実現性が不明確等
（加算点なし。履行義務なし）
- × : 採用できない（加算点なし。履行義務なし）

【留意点等】

- ◇ 提示される着目点を踏まえた**追加提案を「○」とし、加点対象**として評価します。提案にあたっては、設計書・仕様書等との違いを明確に記載して下さい。また、審査の際には、**履行の確実性**についても考慮します。
- ◇ **提案数には制限があります**（各評価項目で提案数は5つ以内）。様式の改ざん等により明らかに制限数を超過して記載した場合、当該評価項目は、加算点なしとします。
- ◇ 参考図面等の補足資料を添付する場合、各評価項目につきA3サイズ1枚（片面）まで可能。規定（A3で1枚）を超過して添付した場合、当該評価項目は、加算点なしとします。

補足資料に関しては、特に以下に留意して下さい。

- あくまでも技術提案書を補足するものであり、余分な提案等を書き込まれてある場合は、加点対象とならない場合があること。
- 記載内容は履行義務が生じるため、実現性等に十分留意すること。特に、入手困難な特殊な資機材を使用する提案等を行う場合は、十分留意すること。

◆ 「施工上の提案」の提案作成上の留意点（Ⅱ型）

① 「最も注意すべき事項」について

- 提示される条件に基づき、「最も注意すべき事項」と「その理由」を記載してください。記載内容については、以下のとおり審査を行います。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・○ : 記載内容が妥当（加点対象）・× : 記載内容が不適當（加算点なし） |
|---|

② 「具体的な対応策」について

- ①で記載した「最も注意すべき事項」を踏まえた「具体的な対応策」を記載してください。それぞれの提案については、以下のとおり審査を行います。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・○ : 追加提案（加点対象。履行義務あり）・△ : 「最も注意すべき事項」を踏まえているが、標準案の範囲に留まる提案（加点対象。履行義務あり）
※「標準案とする提案一覧」を含む。・－ : 「最も注意すべき事項」が不適當、「最も注意すべき事項」を踏まえていない、「追加提案」としない提案（P16参照）に該当する、履行の具体性や実現性が不明確等
（加算点なし。履行義務なし）・× : 採用できない（加算点なし。履行義務なし） |
|--|

【留意点等】

- ◇ 記載数と文字数には制限があります（「①最も注意すべき事項」、「②具体的な対応策」とも1つずつ記載。文字数の制限は200文字）。明らかに制限数を超えて提案等した場合、加点対象としない（－や×）等の取り扱いとなります。

- ◇ 様式を明らかに改ざんし、悪質と認められる場合や、補足資料を添付した場合、「施工上の提案」は、加算点なしとします。

■ 「追加提案」としない提案について

以下のような提案は、追加提案として評価しません。提案書作成の際は十分留意して下さい。

■ 「追加提案」としない提案（例）

1. 工事目的物を変える等の過度な提案

- 図面、仕様書等で明示している工事目的物の基本的な形状、規格等の変更を要する提案
- 過度な効果を実現するための提案、社会通念上、明らかに利益を度外視した過度なコストを要する提案

2. 履行の具体性や実現性が不明確な提案

- 「～努力する」、「～目標とする」と記載されるなど、履行の具体性に欠ける提案
- 提案の実施にあたり、他機関及び他工事との調整、第3者との調整・協力等が前提となるため、実現性が不明確な提案
- 表現が抽象的で、実施するための方法や基準、場所、時期、頻度、実施量などが不明確な提案。

3. 提案の条件を満たしていない提案、その他評価できない提案

- 着目点を踏まえていない提案
- 1つの提案の中に複数の提案内容が含まれる提案
- 所定の記載欄以外に記載されている提案（補足資料中の提案など）
- 現場条件等により実施できない提案

■ 標準案の範囲に留まる提案について

以下のような提案は、標準案の範囲に留まる提案となります。提案書作成の際は十分留意して下さい。

■ 標準案の範囲に留まる提案（例）

- 設計図書（設計書、仕様書など）に示された内容と同等の提案
- 関係法令に基づき、遵守義務がある提案（現場管理や安全管理、労働安全衛生等に関する提案）
- 一般的な法令・規則の遵守に関する提案（飲酒運転やポイ捨て禁止など）
- 公告資料「標準案とする提案一覧」に示されている提案

③ 地場企業の活用

地場企業の活用は、全ての型式で対象となる選択項目となります。2つの項目からなり、下請や資材調達において、地場企業の活用を促すための評価項目となります。

区分	適用	技術評価項目	配点
			各型式共通
地場企業の活用	選択	I. 地場企業への下請計画	1
		II. 地場企業からの資材調達計画	1

下請計画や資材調達計画に関し提案を受け、評価を行います。また、技術提案等と同様、提案内容に関しては履行義務があります。

I. 地場企業への下請計画

工事契約予定額に占める、地場外企業への下請額の割合が低い者を優位に評価します。

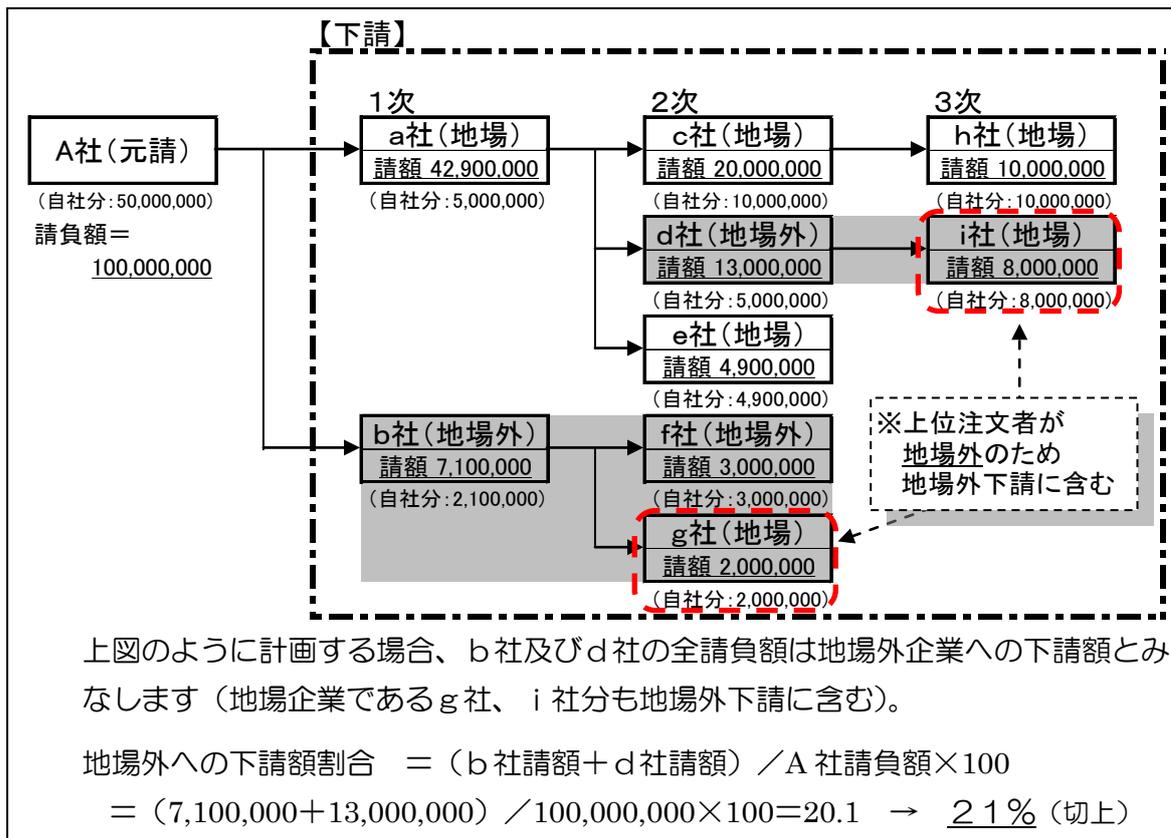
評価項目	評価内容	最大配点	配点区分	適用回答様式
地場請企業への	<p>・当該工事において、請負予定額に占める地場外への下請予定額の割合（整数止め。小数点以下を切上）が低い者から下記のとおり段階的に評価</p> <p>地場外への下請額割合＝ （地場外への下請予定額）／工事請負予定額×100（％）</p> <p>A：0％から2％以下 B：2％を超え5％以下 C：5％を超え10％以下 D：10％を超え15％以下 E：15％を超え20％以下 F：20％を超えるもの</p>	全型式 1点	<p>【6段階】</p> <p>A：1.00 B：0.80 C：0.60 D：0.40 E：0.20 F：0.00</p>	<p>選択</p> <p>様式6-1</p>

【留意点等】

評価にあたっての諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」で必ず確認して下さい。

- ◇ 上記「地場外への下請予定額割合」を提示していただき、その割合に応じ、加點評価します。
- ◇ 加點評価された場合、落札者となった者は、提示した「地場外への下請予定額割合」以内で履行しなければなりません。不履行の場合、技術提案等と同様、ペナルティが発生します。
- ◇ 元請（JVの場合、構成員を含む）が地場外であっても、自社施工分は「地場外への下請予定額」には含みません。
- ◇ 例えば、A工事を一次下請として地場外企業が受注し、その一部を地場企業が二次下請として受注しても、上位注文者が地場外企業であるため、この場合、A工事は全て地場外企業への下請額とみなします（次ページ参照）。

〈地場外への下請額割合の算出事例〉



II. 地場企業からの資材調達計画

各工事の主な工事資材の内、あらかじめ指定する資材を地場企業から調達する場合、評価します。

評価項目	評価内容	最大配点	配点区分	適用回答様式
地場企業からの資材調達計画	<p>・当該工事において、指定する工事資材について、地場企業が製造した資材を使用する場合、評価</p> <p>A：指定資材について、全て地場企業の製造資材を使用 E：それ以外</p>	全型式 1点	【2段階】 A：1.00 E：0.00	選択 様式6-2

【留意点等】

評価にあたっての諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」で必ず確認して下さい。

- ◇ あらかじめ指定する工事資材について、全てを地場企業(市内に本店)が製造した資材を使用すると計画した場合、加点点評価します。ただし、商社等を通じ調達する場合は、商社等が地場企業であり、かつ、対象資材が地場企業により製造されていれば加点点対象となります。
- ◇ 加点点評価された場合、落札者となった者には履行義務が生じます。不履行の場合、技術提案等と同様、ペナルティが発生します。

3- (3) 企業評価項目

企業評価項目は、全ての型式で対象となります。

「企業の施工能力」、「技術者の能力」、「社会貢献・地域貢献」、「企業の信頼性・社会性」において、定量的に入札参加者の技術的能力を評価し、工事の品質向上を図ります。

◆ 評価項目の内容

➤ 企業評価項目は、大きく4つに区分され、各項目は、必須項目と選択項目で構成されます（WTO型では対象外となる項目があります。P11参照）。

- ① 工事成績の実績、同種工事の施工実績などによる「**企業の施工能力**」
- ② 配置予定技術者の資格の保有状況、施工経験による「**技術者の能力**」
- ③ 社会貢献優良企業の認定状況、災害対策協力、本店所在状況などによる「**社会貢献・地域貢献**」
- ④ 競争入札参加停止措置状況による「**企業の信頼性・社会性**」

各評価項目の加算点は、小数第4位四捨五入で算出します。

以下に各評価項目の留意点等を記載しています。なお、評価基準などの諸条件については、各工事の入札公告時に示される「**技術提案書提出説明書**」を十分確認して下さい。

① 企業の施工能力

「企業の施工能力」に関する評価項目は、6項目からなり、必須項目が3項目、選択項目が3項目となっています。

区分	適用	技術評価項目	配点
			各型式共通
企業の 施工能力	必須	i. 工事成績の実績	4
		ii. 工事成績優良業者の表彰実績	1
		iii. 同種工事の施工実績	1
	選択	iv. 受注工事件数	1
		v. 品質管理への取り組み	1
		vi. 建設業労働災害防止協会加入状況	1

i. 工事成績の実績

一定期間内の本市（水道局、交通局含む）又は福岡市施設整備公社（以下、「本市等」という）から直接請け負った同一業種の工事において、工事成績評定の良い者を優位に評価します。

評価項目	評価内容	最大配点	配点区分	適用回答様式
工事成績の実績	<ul style="list-style-type: none"> 一定期間内の同一業種の工事において、本市等が通知した任意3件の工事成績評定の平均点（小数3位四捨五入）を算出し、下記のとおり評価。 A：平均95点以上 ※平均65点超～95点未満は下記算出式により評価 平均80点超 加算点=3.0+1.0×(平均点-80)÷15 平均80点以下 加算点=3.0×(平均点-65)÷15 E：65点以下または実績無し 	全型式 4点	A：4.00 ～ 算出式 により評価 ～ E：0.00	必須 様式7-1
	<ul style="list-style-type: none"> (JVの場合) ・構成員それぞれに加算点を算出し、その平均点をJVの加算点とする 			
	<ul style="list-style-type: none"> 〈評価対象〉 ・入札公告日の10年前の日が属する年度の4月1日から入札公告日前日までに本市等より工事成績評定通知書を交付（通知日基準）された工事 ・同一業種とは、入札公告をもって示した登録業種をいう。 			

【留意点等】

評価にあたっての諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」で必ず確認して下さい。

- ◇ 対象工事の業種を限定しておりますので、ご注意下さい。例えば、建築工事の案件であれば、過去の建築工事の実績しか対象となりません。
- ◇ 一般土木と管2種は、同一業種として取扱い評価を行います。
- ◇ 管と管1種は、別業種として取扱い評価を行います。
- ◇ 過去のJV工事における構成員の実績も対象に含まれます。
- ◇ 対象となる業種の工事成績の実績が3件未満の場合、該当分を全て記載して下さい。その場合、該当分の平均点で評価します。
- ◇ 「工事成績評定通知書の写し」の添付が必要です。

以下の事項に該当し、その事項が入札参加者にとって有利となるものについては、原則「E評価」となりますので、十分留意して下さい。

（詳細は各工事の「技術提案書提出説明書」で確認）

- ◇ 対象外の工事を提出した場合
- ◇ 提出が3件未満で、他に対象工事の実績があることが判明した場合

ii. 工事成績優良業者の表彰実績

一定期間内の本市（水道局、交通局含む）又は福岡市施設整備公社（以下、「本市等」という）から直接請け負った同一業種の工事において、「福岡市工事成績優良業者」として表彰対象となった者を評価します。

評価項目	評価内容	最大配点	配点区分	適用回答様式
工事成績優良業者の表彰実績	<ul style="list-style-type: none"> 一定期間内の同一業種の工事において、「福岡市工事成績優良業者」として表彰対象となった者を評価 A：表彰対象者 E：該当しない 	全型式 1点	【2段階】 A：1.00 E：0.00	必須 様式7-2
	(JVの場合) <ul style="list-style-type: none"> 構成員それぞれに加算点を算出し、その平均点をJVの加算点とする 			
	<評価対象> <ul style="list-style-type: none"> 入札公告日前日までの2年間に、本市等より工事成績優良業者として表彰の対象である旨通知（同通知後、表彰の取り消しを通知されたものは除く）された工事。ただし、表彰日の翌日から入札公告日前日までの間に競争入札参加停止の措置を受けた期間がある場合は、評価対象としない。 同一業種とは、入札公告をもって示した登録業種をいう。 			

【留意点等】

評価にあたっての諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」で必ず確認して下さい。

- ◇ 対象期間内に「福岡市工事成績優良業者表彰要綱」に基づき、表彰の対象である旨、通知を受けた工事を対象とします。通知を受けても、その後、表彰対象から外れた工事は除きます。
- ◇ 表彰日の翌日から入札公告日前日までの間に、競争入札参加停止の措置を受けた期間がある場合は、評価対象となりません。
- ◇ 対象工事の業種を限定しておりますので、ご注意ください。例えば、建築工事の案件であれば、過去の建築工事の実績しか対象となりません。
- ◇ 一般土木と管2種は、同一業種として取扱い評価を行います。
- ◇ 管と管1種は、別業種として取扱い評価を行います。
- ◇ 過去のJV工事における構成員の実績も対象に含まれます。

以下に該当する場合、原則「E評価」となりますので、十分留意して下さい。
（詳細は各工事の「技術提案書提出説明書」で確認）

- ◇ 対象外の工事を提出した場合

iii. 同種工事の施工実績

一定期間内に同種工事の施工実績のある者を優位に評価します。

評価項目	評価内容	最大配点	配点区分	適用回答様式
同種工事の施工実績	<ul style="list-style-type: none"> 一定期間内における、工事毎に設定する同種工事の施工実績により3段階評価 A：2件以上の実績有り C：1件の実績有り E：実績無し 	全型式 1点	【3段階】 A：1.00 C：0.50 E：0.00	必須 様式8
	(JVの場合) <ul style="list-style-type: none"> 構成員それぞれに加算点を算出し、その平均点をJVの加算点とする 			
	<評価対象> <ul style="list-style-type: none"> CORINS登録工事を基本とし、前年度までの10年間及び当該年度の入札公告日前日迄に完成した工事が対象 			

【留意点等】

評価にあたっての諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」で必ず確認して下さい。

- ◇ 工事毎に設定される同種工事の条件を満足するCORINS登録工事が対象です。
- ◇ 本市工事に限らず他官庁等の工事も対象に含まれます。また、過去のJV工事における構成員の実績も対象に含まれます。
- ◇ 同種工事の条件を満足することを確認できるCORINSの工事カルテの該当箇所の写し、CORINSの工事カルテで確認できない場合は、CORINSの工事カルテの写し及び別途確認できる資料（契約図書において、同種工事であることが分かる設計書・図面等の写しなど）の添付が必要です。
- ◇ 資料には、同種工事の条件を満たすことが確認できる箇所にマーカー等で印をつけてください。

以下に該当する場合、当該工事の実績は無いものとみなすので、十分留意して下さい。

- ◇ 対象外の工事である場合
- ◇ 添付資料で同種工事の条件を満たすことが確認できない場合

iv. 受注工事件数

一定期間内の本市（水道局、交通局含む）又は福岡市施設整備公社（以下、「本市等」という）から直接請け負った工事の受注実績が少ない者を優位に評価します。

評価項目	評価内容	最大配点	配点区分	適用回答様式
受注工事件数	<ul style="list-style-type: none"> 一定期間内の本市等発注工事の契約件数（工事毎に設定）により、2段階評価（特に頻度の高い業種は3段階） A：契約無し (C：契約1件) E：契約1件以上（2件以上） 	全型式 1点	【2(3)段階】 A：1.00 (C：0.50) E：0.00	選択 様式9
	(JVの場合) <ul style="list-style-type: none"> 構成員それぞれに加算点を算出し、その平均点をJVの加算点とする 			
	<評価対象> <ul style="list-style-type: none"> 入札公告日直前の1年間に契約した当該登録業種の工事（案件によっては別途設定。特命随意契約、単価契約除く） 			

【留意点等】

評価にあたっての諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」で必ず確認して下さい。

- ◇ 対象工事は、個別工事の「入札説明書（個別事項）」の「手持ち工事」または「落札状況」で指定する工事です。工事により対象が異なりますので、入札公告時に確認して下さい。

以下に該当する場合、原則「E評価」となりますので、十分留意して下さい。（詳細は各工事の「技術提案書提出説明書」で確認）

- ◇ 受注工事の記載漏れが判明した場合

v. 品質管理への取り組み

「ISO9001」の取得のある者を優位に評価します。

評価項目	評価内容	最大配点	配点区分	適用回答様式
品質管理への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 公告日時点における、ISO9001の取得の有無により2段階評価 A：取得有り E：取得無し 	全型式 1点	【2段階】 A：1.00 E：0.00	選択 様式10-1
	(JVの場合) <ul style="list-style-type: none"> 構成員それぞれに加算点を算出し、その平均点をJVの加算点とする 			

【留意点等】

評価にあたっての諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」で必ず確認して下さい。

- ◇ ISO9001の「認証書（登録証・付属書等）の写し」の添付が必要。

以下に該当する場合、原則「E評価」となりますので、十分留意して下さい。
 （詳細は各工事の「技術提案書提出説明書」で確認）

- ◇ ISO9001の「認証書（登録証・付属書等）の写し」の添付漏れ
- ◇ 有効期限が切れている、あるいは有効期限内であることが確認できない場合
- ◇ 事実と異なる提出があった場合

vi. 建設業労働災害防止協会加入状況

建設業労働災害防止協会への加入者を優位に評価します。

評価項目	評価内容	最大配点	配点区分	適用回答様式
建設業労働災害防止協会加入状況	・当該年度4月1日から入札公告日前日迄の間における、建設業労働災害防止協会への加入状況により2段階評価 A：加入 E：未加入 (JVの場合) ・構成員それぞれに加算点を算出し、その平均点をJVの加算点とする	全型式 1点	【2段階】 A：1.00 E：0.00	選択 様式 10-2

【留意点等】

評価にあたっての諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」で必ず確認して下さい。

以下に該当する場合、原則「E評価」となりますので、十分留意して下さい。
 （詳細は各工事の「技術提案書提出説明書」で確認）

- ◇ 加入の事実を確認できない場合

② 技術者の能力

「技術者の能力」に関する評価項目は、必須項目2項目からなり、配置予定技術者の能力を評価します。

区分	適用	技術評価項目	配点
			各型式共通
技術者の能力	必須	vii. 資格の保有状況	1
		viii. 同種工事の施工経験	1

配置予定技術者は、最大3名まで提示することが出来ますが、技術者ごとに、「vii. 資格の保有状況」と「viii. 同種工事の施工経験」を合わせた評価を行い、最も低い技術者の加算点を採用します。

また、落札者となった場合、工事に配置する技術者は、提示した技術者の中から必ず配置しなければなりません。

vii. 資格の保有状況

資格の保有期間が長い技術者を優位に評価します。

評価項目	評価内容	最大配点	配点区分	適用回答様式
資格の保有状況	<p>・入札者が提示する配置予定技術者（最大3人まで提示可）の監理技術者資格者証の保有期間（公告日時点）により3段階で評価。複数名を提示した場合、「同種工事の施工経験」とあわせ最も評価が低い技術者の加算点とする。</p> <p>A：5年以上保有 C：3年以上保有 E：それ以外</p>	全型式 1点	<p>【3段階】</p> <p>A：1.00 C：0.50 E：0.00</p>	<p>必須</p> <p>様式11</p>

【留意点等】

評価にあたっての諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」で必ず確認して下さい。

◇ 「資格者証の写し」の添付が必要です。

以下に該当する場合、原則「E評価」となりますので、十分留意して下さい。
(詳細は各工事の「技術提案書提出説明書」で確認)

- ◇ 「同種工事の施工経験」で提出する技術者と異なる者で提出した場合
- ◇ 評価対象条件を満たす「資格者証の写し」の添付漏れ
- ◇ 資格の保有期間が確認できない場合
- ◇ 本工事への配置が不可能であることが判明した場合

viii. 同種工事の施工経験

同種工事の施工経験を有する技術者を優位に評価します。

評価項目	評価内容	最大配点	配点区分	適用回答様式
同種工事の施工経験	<p>・入札者が提示する配置予定技術者（最大3人まで提示可）の一定期間内の同種工事（期間、対象は企業の施工能力での同種工事と同じ）の監理技術者、主任技術者または現場代理人としての施工経験の有無により2段階評価。複数名を提示した場合、「資格の保有状況」とあわせ最も評価が低い技術者の加算点とする</p> <p>A：施工経験有り E：施工経験無し</p>	全型式 1点	<p>【2段階】</p> <p>A：1.00 E：0.00</p>	<p>必須</p> <p>様式11</p>

【留意点等】

評価にあたっての諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」で必ず確認して下さい。

- ◇ 工事毎に設定される同種工事の条件を満足するCORINS登録工事が対象です。
- ◇ 本市工事に限らず他官庁等の工事も対象に含まれます。また、過去のJV工事における構成員の実績も対象に含まれます。同種工事の条件は、「企業の施工能力」の「同種工事の実績」の条件と同じです。
- ◇ 施工経験とは、監理技術者、主任技術者、現場代理人のいずれかで携わった工事が対象です。それ以外の施工経験は対象外ですので、ご注意下さい。
- ◇ 同種工事の条件を満足することを確認できるCORINSの工事カルテの該当箇所の写し、CORINSの工事カルテで確認できない場合は、CORINSの工事カルテの写し及び別途確認できる資料（契約図書において、同種工事であることが分かる設計書・図面等の写しなど）の添付が必要です。
- ◇ 資料には、同種工事の条件を満たすことが確認できる箇所にマーカー等で印をつけてください。

以下に該当する場合、原則「E評価」となりますので、十分留意して下さい。
（詳細は各工事の「技術提案書提出説明書」で確認）

- ◇ 監理技術者、主任技術者、現場代理人のいずれかで携わったことが確認できない場合
- ◇ 対象外の工事が記載されている場合
- ◇ 添付資料で同種工事の条件を満たすことが確認できない場合
- ◇ 本工事への配置が不可能であることが判明した場合

③ 社会貢献・地域貢献

「社会貢献・地域貢献」に関する評価項目は、3項目からなり、必須項目が2項目、選択項目が1項目となっています。

区分	適用	技術評価項目	配点
			各型式共通
社会貢献・ 地域貢献	必須	ix. 社会貢献・政策貢献	2
	選択	x. 災害対策協力企業	2
	必須	xi. 本店所在地	1

ix. 社会貢献・政策貢献

本市より下表の事業で「社会貢献優良企業」として認定されている者を優位に評価します。

評価項目	評価内容	最大配点	配点区分	適用回答様式
社会貢献・政策貢献	公告日時点において、本市の社会貢献優良企業として認定された事業数により評価 [社会貢献優良企業の対象事業] ・障がい者雇用促進事業 ・環境配慮型事業所支援事業 ・次世代育成・男女共同参画支援事業 ・協力雇用主支援事業 ・消防団協力事業所支援事業 ・ふくおか「働き方改革」推進企業認定事業 ・Well-being及びSDGs推進事業 ・地域活動貢献企業認定事業 ※1つ認定につき、0.5点付与（最大2.0点）	全型式 2.0点	【5段階】 A：2.00 B：1.50 C：1.00 D：0.50 E：0.00	必須 様式12
	(JVの場合) ・構成員それぞれに加算点を算出し、その平均点をJVの加算点とする			

【留意点等】

評価にあたっての諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」で必ず確認して下さい。

以下に該当する場合、当該事業の実績は無いものとみなすので、十分留意して下さい。

◇ 入札公告日時点で、福岡市より「社会貢献優良企業」として認定されていない事業の提出があった場合

x. 災害対策協力企業

本市と防災活動に関する協定を締結している団体に所属し、災害発生時等に市と協力体制を確立して、防災活動を行う者を優位に評価します。

評価項目	評価内容	最大配点	配点区分	適用回答様式
災害対策協力企業	・当該年度4月1日時点における、本市と防災活動に関する協定を締結した団体に所属する企業について評価 A：該当する（協定締結から10年以上の団体所属） B：該当する（協定締結から5年以上10年未満の団体所属） C：該当する（協定締結から5年未満の団体所属） E：該当しない (JVの場合) ・構成員それぞれに加算点を算出し、その平均点をJVの加算点とする	全型式 2点	【4段階】 A：2.00 B：1.50 C：1.00 E：0.00	選択 様式13

【留意点等】

評価にあたっての諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」で必ず確認して下さい。

以下に該当する場合、原則「E評価」となりますので、十分留意して下さい。
 (詳細は各工事の「技術提案書提出説明書」で確認)

- ◇ 前年度に防災協定に基づく活動実績が確認できない場合
(ただし協定締結期間1年未満の団体は除く)

xi. 本店所在地

本店が本市内に所在し、本市競争入札有資格者名簿（工事）に地場企業として登録された期間が長い者を優位に評価します。

評価項目	評価内容	最大配点	配点区分	適用回答様式
本店所在地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公告日において本市に本店を有し、本市競争入札有資格者名簿（工事）への地場企業としての継続登録期間により5段階評価 A：名簿登録期間30年以上 B：名簿登録期間20年以上30年未満 C：名簿登録期間10年以上20年未満 D：名簿登録期間10年未満 E：名簿登録なし 	全型式 1点	【5段階】 A：1.00 B：0.75 C：0.50 D：0.25 E：0.00	必須 様式14
	(JVの場合) ・ 構成員それぞれに加算点を算出し、その平均点をJVの加算点とする			

【留意点等】

評価にあたっての諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」で必ず確認して下さい。

- ◇ 本市競争入札有資格者名簿に登録された期間は、地場企業として継続して登録されている期間ですので、ご注意下さい。

以下に該当する場合、提出した評価点とならないことがありますので、十分留意して下さい。

- ◇ 事実と異なる記載が判明した場合

④ 企業の信頼性・社会性

「企業の信頼性・社会性」に関する評価項目は、必須項目が1項目となっています。

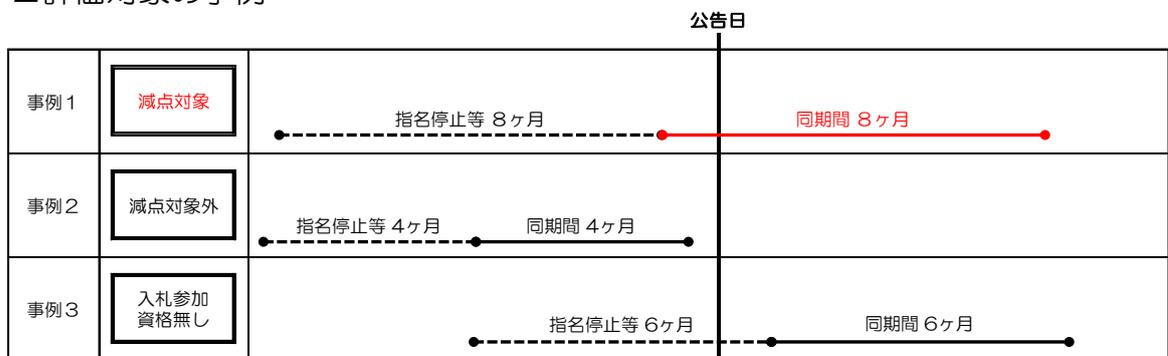
区分	適用	技術評価項目	配点
			各型式共通
企業の信頼性・社会性	必須	xii. 競争入札参加停止措置状況	-2

xii. 競争入札参加停止措置状況

福岡市競争入札参加停止等措置要領別表第1及び別表第2に掲げる措置要件に該当し、一般競争入札参加停止及び指名停止（以下、競争入札参加停止等）の措置を受けた者を減点評価します。

評価項目	評価内容	最大配点	配点区分	適用回答様式
競争入札参加停止措置状況	<p>・公告日に、競争入札参加停止期間満了日の翌日を起算日とする競争入札参加停止期間と同期間が係る場合に、評価点を減点 A：該当無し E：該当有り</p> <p>(JVの場合) ・構成員に対象者が含まれる場合は、減点とする</p>	全型式 -2点	【2段階】 A：0.00 E：-2.00	必須 様式15

■ 評価対象の事例



【留意点等】

評価にあたっての諸条件は各工事の「技術提案書提出説明書」で必ず確認して下さい。

◇ 本市からの「競争入札参加停止措置の対象である旨の通知の写し」の添付が必要です。

以下に該当する場合、提出した評価点とならないことがありますので、十分留意して下さい。

◇ **事実と異なる記載**が判明した場合

3－（4）技術提案書の作成と提出

総合評価落札方式の対象工事に入札参加される場合、入札書のほか、設定された技術評価項目に基づき、「技術提案書」を提出していただくことになります。

以下に留意の上、「技術提案書」を作成し、提出して下さい。

◆ 「技術提案書」作成にあたって

- 技術提案書の作成にあたっては、個別工事の「設計図書」のほか、「入札説明書（総合評価落札方式 共通事項）」、「入札説明書（個別事項）」、「**技術提案書提出説明書**」「標準案とする提案一覧」を熟読し、工事内容、技術提案書作成条件等を確認して下さい。
- 特に、「技術提案書提出説明書」には、各技術評価項目の詳細な説明や減点措置となる事項など、留意点なども記載していますので、技術提案書作成前に十分確認して下さい。

必須様式の提出がない場合、欠格となりますので、十分留意して下さい。

3－（5）一括審査方式

入札参加者及び発注者双方の事務負担の軽減を図るとともに、効率的な入札・契約事務の実施を図るため、「一括審査方式」を採用する場合があります。

一括審査方式とは、入札参加資格要件等を共通化できる複数工事の発注を同時期に行う場合、入札参加者からの技術提案書（提案項目及び企業評価項目）の提出を1つのみとし、技術提案書の審査・評価を一括して行うものです。

（一括審査を行う工事の条件）

- ◇ 適用する型式が「**Ⅱ型**」であること
- ◇ **工事内容が同様の工事において、下記の内容が同一**であること
 - ・発注形態 ・登録業種 ・格付等級 ・公告日
 - ・開札予定日時 ・技術評価項目、評価内容および評価対象

（一括審査の対象となる工事の例）

- ・ 1つの路線において施工範囲を分割した道路工事
（市道○△線1工区、2工区）
 - ・ 広大な敷地において施工範囲を分割した地盤改良工事
（●▲工事その1、その2）
 - ・ 施工箇所が離れた下水道管更生工事
（東区、西区管内）
- 等

◆ 一括審査対象工事の技術提案書作成上の留意点等

- 一括審査の対象となる全ての工事において、技術評価項目は同一とするため、作成する技術提案書は各工事に共通する提案1つのみになります。
- 一括審査の対象となる工事は、各入札公告における「一括審査対象工事一覧」を参照してください。
- 入札参加者は、工事毎に設定される入札参加資格を満たしたうえで、一括審査対象工事の全ての工事又は希望する工事の入札に参加することができます。
- 入札書及び工事費内訳書の提出は、入札に参加する工事についてのみ行ってください。

内容が異なる複数の技術提案書を提出した場合など、対象工事を一括して審査・評価できない場合は、対象工事の入札に参加する全ての工事において「欠格」となりますので、十分留意して下さい。

■一括審査方式のイメージ

【技術提案書の提出】

個別工事

①工事	②工事	③工事	④工事	⑤工事
技術提案書A	技術提案書B	技術提案書C	技術提案書D	技術提案書E



5工事すべてに参加する場合は、**5つの技術提案書が必要**

一括審査方式対象工事

①工事	②工事	③工事	④工事	⑤工事
各工事に共通する技術提案書				



5工事すべてに参加する場合でも、**1つの技術提案書のみ提出**

【開札】

開札順番	①工事 1番目	②工事 2番目	③工事 3番目	④工事 4番目	⑤工事 5番目
入札参加者					
A社	3位	2位	落札決定 1位	他案件落札	他案件落札
B社	落札決定 1位	他案件落札	他案件落札	他案件落札	他案件落札
C社	5位	3位	2位	2位	落札決定 1位
D社	不参加	不参加	3位	落札決定 1位	他案件落札
E社	2位	落札決定 1位	他案件落札	他案件落札	他案件落札
F社	4位	4位	4位	3位	2位

- ※ 工事毎に評価値を算出し、評価値が高い入札参加者から落札します。
- ※ 上記の開札イメージにおいて、各入札参加者の入札金額は工事毎に異なります。

■一括審査対象工事における「施工上の提案」の提案作成上の留意点

一括審査対象工事の「施工上の提案」については、個別工事と同様に、評価項目について、①「最も注意すべき事項とその理由」、②「具体的な対応策とその効果」を具体的に記載しますが、その内容は、一括審査の対象となる全ての工事に共通する内容のみになりますので、十分留意して下さい。

【一括審査対象工事の場合】

技術提案書 様式4 関連

評価項目 ① 「〇〇時」における「安全管理（第三者（人・物）に対する事故防止）」について
(施工上の提案に係る事項)

着 目 点 等

1. 最も注意すべき事項
「〇〇時」における「安全管理」について「第三者（人・物）に対する事故防止」の観点から施工上「最も注意すべき事項」について提案を求める。

2. 具体的な対応策
上記への「具体的な対応策」について提案を求める。

3. 「追加提案」としない提案内容
下記の提案については、**追加提案としな**いで注意すること。
【設計変更等の協議で対応すべき提案】
・誘導員の数、配置に関する提案
・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に関する提案
【複数提案】
・実施内容が2つ以上記載されている提案
【表現が抽象的で実施内容が不明確な提案】
・実施方法や基準、規格等が明記されていない提案
【一括審査対象工事で実施内容が限定的な提案】
・いずれかの工事にしか採用できない提案、または、いずれかの工事のみを対象とした提案
【標準案】
・標準案とする提案一覧に示されている提案

施工上の提案 受付№. _____ 【様式4】

① 一括審査対象工事名：〇〇工事(字の1)	一括審査対象工事
② 一括審査対象工事名：〇〇工事(字の2)	一括審査対象工事
③ 一括審査対象工事名：〇〇工事(字の3)	一括審査対象工事
④ 一括審査対象工事名：〇〇工事(字の4)	一括審査対象工事
⑤ 一括審査対象工事名：〇〇工事(字の5)	一括審査対象工事
⑥ 一括審査対象工事名：〇〇工事(字の6)	一括審査対象工事
⑦ 一括審査対象工事名：〇〇工事(字の7)	一括審査対象工事
⑧ 一括審査対象工事名：〇〇工事(字の8)	一括審査対象工事
⑨ 一括審査対象工事名：〇〇工事(字の9)	一括審査対象工事
⑩ 一括審査対象工事名：〇〇工事(字の10)	一括審査対象工事

本工事の現場条件や設計図書等の内容を考慮した上で、以下の各項目に記載すること。

評価項目 ① 「〇〇時」における「安全管理（第三者（人・物）に対する事故防止）」について

提案の有無 _____ **—いずれかを選択**

(1) 「〇〇時」における「安全管理」について「第三者（人・物）に対する事故防止」の観点から施工上「最も注意すべき事項」を一つ、その理由を具体的に記載すること。
※フォントサイズは10.5pt以上とし、200文字以内とする。 字数：0

(2) 上記への「具体的な対応策」として、標準案（設計書、仕様書等に基づき実施すべき事項）を上回る提案を一つ、その効果を具体的に記載すること。
※フォントサイズは10.5pt以上とし、200文字以内とする。
（どういった仕組）の（物）を設置するが、具体的に記載してください。 字数：134

※一括審査対象工事においては、対象となる全ての工事に共通する提案を記載することとなるため、共通化できない、場所、時期、頻度、規模、実施量等は記載しないで下さい。
※この記載を消して記入願います。

仕様等は具体的に記入してください。具体的に記載されていない場合、追加提案としません。
※実施内容は1つのみ記入して下さい。複数の実施内容が記載された場合、追加提案としない。

一括審査対象工事においては、対象となる全ての工事に共通する提案を記載して下さい。共通化できない、場所、時期、頻度、規模、実施量等は記載しないで下さい。

（参考）【個別工事の場合】

技術提案書 様式4 関連

評価項目 ① 「〇〇時」における「安全管理（第三者（人・物）に対する事故防止）」について
(施工上の提案に係る事項)

着 目 点 等

1. 最も注意すべき事項
「〇〇時」における「安全管理」について「第三者（人・物）に対する事故防止」の観点から施工上「最も注意すべき事項」について提案を求める。

2. 具体的な対応策
上記への「具体的な対応策」について提案を求める。

3. 「追加提案」としない提案内容
下記の提案については、**追加提案としな**いで注意すること。
【設計変更等の協議で対応すべき提案】
・誘導員の数、配置に関する提案
・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に関する提案
【複数提案】
・実施内容が2つ以上記載されている提案
【表現が抽象的で実施内容が不明確な提案】
・実施方法や基準、場所、時期、頻度、規模、実施量等が明記されていない提案
【標準案】
・標準案とする提案一覧に示されている提案

施工上の提案 受付№. _____ 【様式4】

工事名 〇〇工事

本工事の現場条件や設計図書等の内容を考慮した上で、以下の各項目に記載すること。

評価項目 ① 「〇〇時」における「安全管理（第三者（人・物）に対する事故防止）」について

提案の有無 _____ **—いずれかを選択**

(1) 「〇〇時」における「安全管理」について「第三者（人・物）に対する事故防止」の観点から施工上「最も注意すべき事項」を一つ、その理由を具体的に記載すること。
※フォントサイズは10.5pt以上とし、200文字以内とする。 字数：0

(2) 上記への「具体的な対応策」として、標準案（設計書、仕様書等に基づき実施すべき事項）を上回る提案を一つ、その効果を具体的に記載すること。
※フォントサイズは10.5pt以上とし、200文字以内とする。
（どこ）に、（どういった仕組）の（物）を（数量）、（期間）設置する、など、具体的に記載してください。 字数：69

※この記載を消して記入願います。

数量、場所、期間、仕様等は具体的に記入してください。具体的に記載されていない場合、追加提案としません。
※実施内容は1つのみ記入して下さい。複数の実施内容が記載された場合、追加提案としない。

4. 中立かつ公正な審査・評価の確保

4-（1）中立かつ公正な審査・評価の確保のために

◆ 中立かつ公正な審査・評価の確保

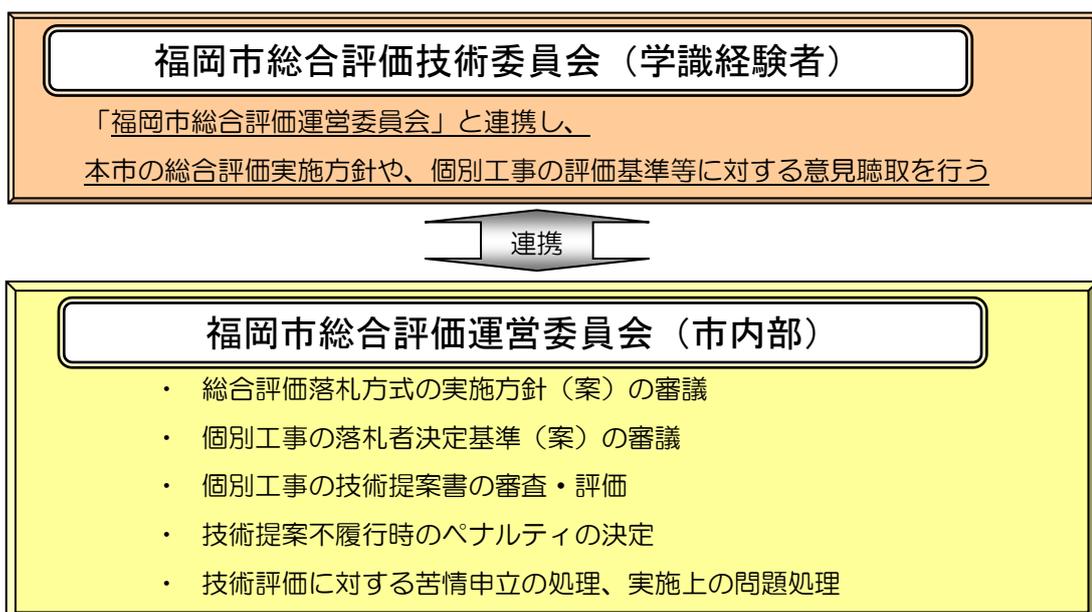
- 総合評価落札方式を実施するにあたり、最も重要なことは中立かつ公正な審査・評価が行われることです。

本市においては、総合評価落札方式実施の各段階において、中立の立場にある学識経験者に確認、意見聴取を行うとともに、評価業務を担う市職員による専門委員会を設置するなど、評価業務における恣意的要素の排除や不正防止の徹底を図った上で、中立かつ公正な審査・評価体制の確立を図っています。

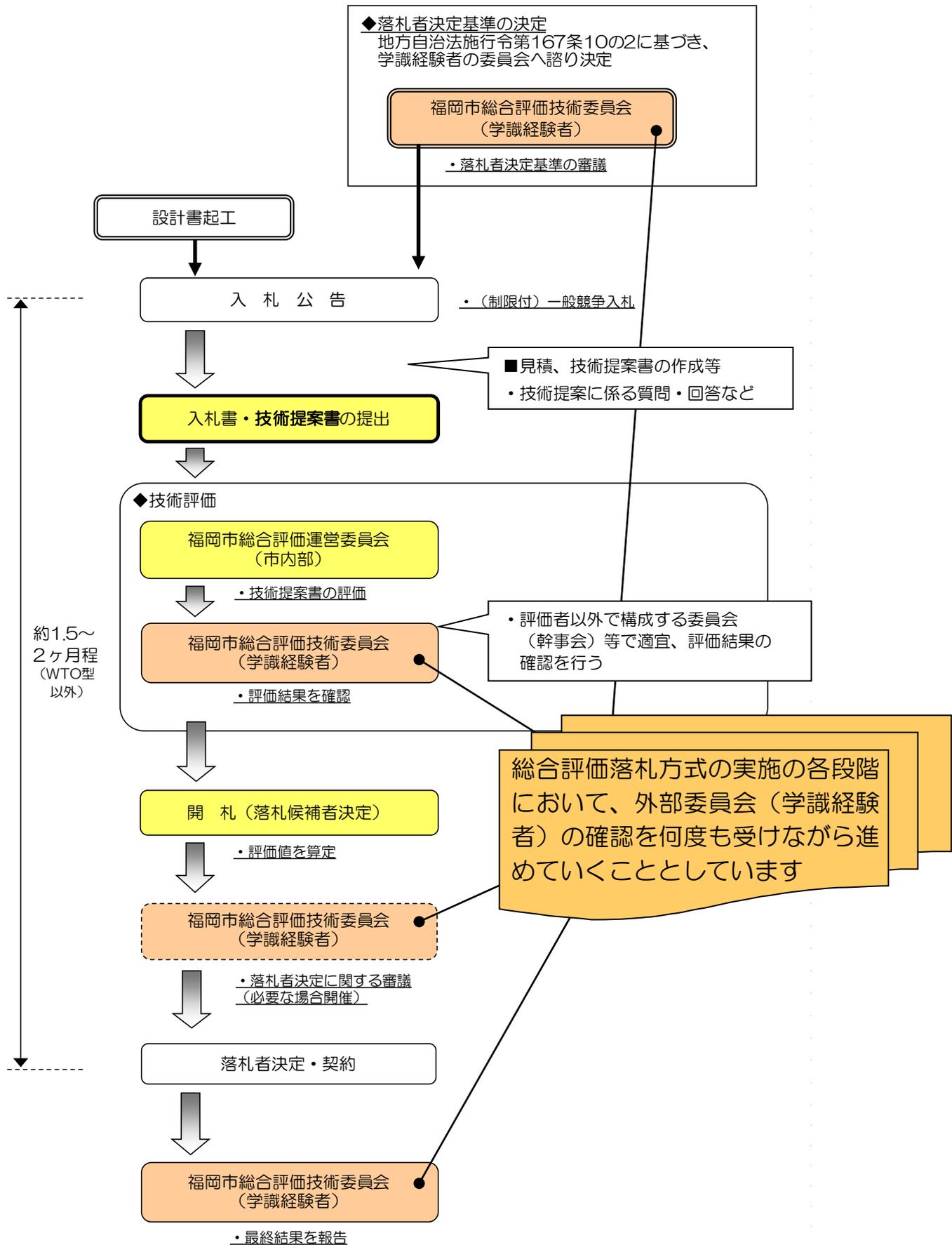
本市の総合評価落札方式の実施方針や複数の工事に共通する評価方法を定めるとき、または、個別工事の落札者決定基準（技術評価項目、配点等）を定めるときは、品確法や地方自治法施行令第167条の10の2第4項により、あらかじめ学識経験者の意見を聴いた上で決定することとされており、本市では、学識経験者で構成される「福岡市総合評価技術委員会」（以下「技術委員会」）を設置し、技術委員会の審議を経て決定することとしています。

また、技術委員会と連携して総合評価落札方式の適正かつ円滑な実施を図るため、市内部に「福岡市総合評価運営委員会」（以下「運営委員会」）を設置し、技術委員会の意見に基づき運営委員会にて評価業務を行います。

■ 本市の総合評価落札方式における技術評価体制



■ 個別工事の各段階における外部委員の審査等



4－（2）公正な評価の確保

総合評価落札方式は、技術評価が落札結果に影響することから、特に公正性の確保が不可欠です。

このため、「福岡市総合評価落札方式における公正な競争の確保に関する要綱」において、入札参加者の技術提案書の評価を公正に行うために、必要な事項を定め、これらを厳格に実施することにより、不正行為を排除し公正な競争の確保を図ることとしています。

① 秘密の保持

落札者決定基準作成から入札参加者の技術提案書の評価を経て、契約締結に至るまでの一連の業務に携わる本市職員は、以下に示す総合評価に関する情報について秘密を保持しなければなりません。

◆ 保持する秘密

- 個別の技術提案書がどの企業のものか特定できる情報
- 入札参加者の技術提案書の内容
- 個別の提案項目の評価基準
- 評価員名（委員の特定につながる組織名、役職名含む）
- 落札者決定前における入札参加者に関する情報
- その他公正な評価を害し、特定の者への便宜、利益又は不利益の誘導につながるおそれのある情報

② 落札者決定基準

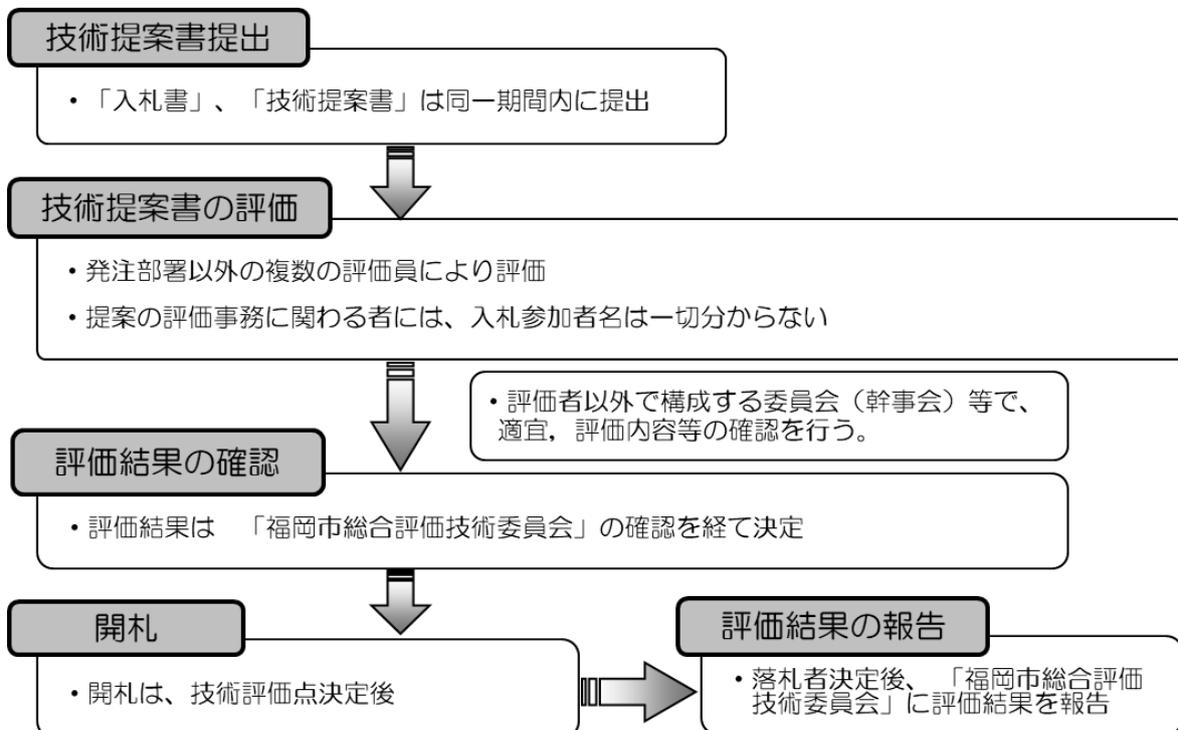
個別工事の落札者決定基準（技術評価項目、配点等）を定めようとするときは、中立の立場である学識経験者の意見を聴くものとし、落札者決定基準は、あらかじめ入札公告で明らかにするものとします。

③ 技術提案書の評価等

入札参加者の技術提案書の評価にあたっては、以下を徹底した上で業務にあたります。

◆ 評価にあたって徹底すること

- 入札にあたっては、入札書と技術提案書は同一期間内の提出とし、開札は技術評価点の結果が出た後に行う。
- 技術提案及び施工上の提案（以下「提案」という。）の評価は、福岡市総合評価運営委員会が指名する複数の評価員が行う。ただし、対象工事の発注部署に所属する者は評価を行わない。
- 提案の評価は、企業名を伏せた技術提案書にて行う。
（評価員、その他提案の評価事務に関わる者は、参加企業名は分からない）
- 評価点の算出後、福岡市総合評価運営委員会（幹事会）等にて、確認を行い、入札参加者の技術評価点を確定する。
- 評価結果は、福岡市総合評価技術委員会（学識経験者）の確認を受ける。



④ 不正な働きかけを受けた場合の対応

■ 規程に基づく措置

総合評価に関する業務において、「不正な働きかけ」又は「不正な働きかけか判断に迷う要請」を受けた場合は、「職員への不正な働きかけ等に対する組織的対応に関する規程」に基づき、厳正に対処することとします。

◆ 「職員への不正な働きかけ等に対する組織的対応に関する規程」に基づく措置

不正な働きかけに関する事実を調査し公正職務審査委員会による審議の結果、不正な働きかけであると認定された場合、不正な働きかけを行った者に対して、次に掲げる措置を取ることがあります。

- ▶ 不正な働きかけを行ったことに対する抗議
- ▶ 不正な働きかけに関する刑事上の告訴又は告発
- ▶ 不正な働きかけが行われた事実及び相手方の氏名等の公表
- ▶ その他不正な働きかけに関して必要と認められる措置

■ 入札参加資格の失格

不正な働きかけが行われたことが明らかとなった場合、当該働きかけを行った入札参加者および当該働きかけにより不正に利益を得る若しくは得たと本市が認めた入札参加者はその資格を失うものとし、当該働きかけの内容を公表します。

◆ 「福岡市総合評価落札方式における公正な競争の確保に関する要綱」第5条

- ▶ 不正な働きかけ等を受けた場合の対応

第5条 総合評価に関する業務に携わる職員は、総合評価に関する業務において、不正な働きかけ又は不正な働きかけか判断に迷う要請を受けた時は、「職員への不正な働きかけ等に対する組織的対応に関する規程」に基づき対応するとともに、福岡市総合評価運営委員会に報告するものとする。

2 総合評価に関する業務に携わる職員または福岡市総合評価技術委員会の委員に対して、不正な働きかけが行われたことが明らかとなった場合、当該働きかけを行った入札参加者および当該働きかけにより不正に利益を得る若しくは得たと本市が認めた入札参加者はその資格を失うものとし、当該働きかけの内容を公表する。

4- (3) 評価結果の公表

契約手続きの透明性を確保するため、技術評価項目や配点などの落札者決定基準等については、あらかじめ入札公告において明らかにするとともに、落札者を決定したときは、速やかに次に掲げる事項を公表します。

◆ 公表する事項

- 入札参加者名
- 各入札参加者の入札価格
- 各入札参加者の技術評価点（以下の区分により加算点内訳を公表）

評価区分		公表範囲
提案項目	技術提案	各項目の点数・内訳 (内訳は、評価区分毎の個数)
	施工上の提案	各項目の点数
	地場企業の活用	各項目の点数
企業評価項目	企業の施工能力	合計点
	技術者の能力	合計点
	社会貢献・地域貢献	合計点
	企業の信頼性・社会性	項目の点数

・「企業評価項目」の各項目の内訳は、入札参加者自身に限定して開示

- 各入札参加者の評価値

評価結果の公表は、本市契約担当部署での閲覧や本市HP上で行います。

◆ 技術評価点の公表イメージ

(評価型式I型)	入札参加者名	配点→	提案項目			企業の施工能力				加算点合計 (a)	標準点 (b)	技術評価点 (a + b)	
			技術提案		小計	企業の施工能力	技術者の能力	社会貢献・地域貢献	企業の信頼性・社会貢献				小計
			項目1	項目2									
			10.0	10.0	20.0	7.0	2.0	5.0	-2.0	14.0	34.0	100.0	134.0
	〇〇建設		8.000	7.000	15.000	6.000	2.000	4.500	-	12.500	27.500	100.000	127.500
	〇〇土木		7.500	6.000	13.500	6.000	2.000	4.500	-	12.500	26.000	100.000	126.000

(評価型式I型)	入札参加者名	配点→	提案項目						提案項目計
			項目1			項目2			
			10.0	区分	提案数	10.0	区分	提案数	
	〇〇建設		8.000	A	3	7.000	A	1	15.0
				B	1		B	2	
				C	0		C	2	
				D	1		D	0	
				E	0		E	0	
	〇〇土木		7.500	A	1	6.000	A	0	13.5
				B	3		B	3	
				C	1		C	1	
				D	0		D	1	
				E	0		E	0	

4- (4) 評価内容の詳細の開示

「技術提案」と「施工上の提案」に関しては、各提案の加点の有無や審査理由等を、当該技術提案書を提出した入札参加者自身に限定して開示します。

具体的には、各提案を審査した内容（P14～15に記載する「○、△、－、×」の判定とその理由）を開示することとします。

◆ 開示するイメージ（参考：「技術提案」の場合）

（凡例）審査結果

○	追加提案（加点対象。履行義務あり）
△	着目点を踏まえているが、標準案の範囲に留まる（加算点なし。履行義務なし） ※「標準案とする提案一覧」を含む。
－	着目点を踏まえていない、「追加提案」としない提案に該当する、履行の具体性や実現性が不明確等（加算点なし。履行義務なし）
×	採用できない（加算点なし。履行義務なし）

評価項目①：○○について

提案	審査結果	審査理由等
(1)	○	
(2)	○	
(3)	－	関係者の了承が得られるか不透明。
(4)	△	仕様書に規定する範囲内に留まる。
(5)	×	工事躯体の基本構造を変える提案であり、採用できない。

◆ 開示するイメージ（参考：「施工上の提案」の場合）

（凡例）審査結果：(1)最も注意すべき事項

○	記載内容が妥当（加点対象）
×	記載内容が不相当（加算点なし）

（凡例）審査結果：(2)具体的な対応策

○	追加提案（加点対象。履行義務あり）
△	「最も注意すべき事項」を踏まえているが、標準案の範囲に留まる提案（加点評価。履行義務あり） ※「標準案とする提案一覧」を含む。
－	「最も注意すべき事項」が不相当、「最も注意すべき事項」を踏まえていない、「追加提案」としない提案に該当する、履行の具体性や実現性が不明確等（加算点なし。実施可能）
×	採用できない（加算点なし。実施不可）

評価項目①：「○○エ」における品質管理について、工事目的物の品質確保の観点からの提案

区分	審査結果	審査理由等
最も注意すべき事項	○	
具体的な対応策	△	仕様書に規定する範囲内に留まる。

4－（5）評価に係る問合せ等

「入札・契約の過程に係る苦情処理手続」に基づき、苦情申立を行うことができますが、この手続きによらずとも、技術提案等の評価に係る問合せを行うことができます。

評価に係る問合せは、入札結果の公表の日の翌日から起算して2日（休日は含まない）以内に受付け、受付期限の翌日から起算して3日（休日は含まない）以内に回答します。

詳細については、入札説明書（総合評価落札方式 共通事項）をご確認下さい。

5. 提案内容の履行義務・保護

5-（1）提案内容の履行義務

総合評価落札方式においては、評価の対象となる技術提案等は落札者決定の要素のひとつであり、競争入札の公平性を確保するため、落札者は提出した技術提案等に基づき施工しなければならず、技術提案等に係る設計変更は原則として行いません。

契約の締結にあたっては、落札者の提案内容について契約上履行すべき事項である旨、契約図書に明示します。ただし、加点対象とならなかった提案内容については、この限りではありません。その場合においても、契約図書にその旨明示することになります。

5-（2）不履行時のペナルティ

履行義務のある落札者の提案内容について、もし落札者の責により履行できない場合は、ペナルティとして工事成績評定の減点を行います。また、特に重大な事案については、競争入札参加停止等の措置、または違約金の徴収の一方、もしくは両方を行うことがあります。

なお、ペナルティの実施については、「福岡市総合評価運営委員会」等により決定します。

◆ 提案不履行時のペナルティ

【工事成績評定の減点】

- 達成されなかった技術評価項目の得点数・配点数及び福岡市請負工事成績評定要領における考査項目「法令順守等」に定める減点数を踏まえ、受注者の責の大小等を考慮した点数を、工事成績評定から減点する。

【競争入札参加停止等】

- 不履行の内容等により、福岡市競争入札参加停止等措置要領に基づく競争入札参加停止等の措置を行う。

【違約金の徴収】

- 以下の算定式に基づく違約金を徴収する。

$$\text{違約金（税抜き）} = A - (B + C_2) / (B + C_1) \times A$$

A : 入札金額 B : 標準点（100）

C₁ : 入札時の提案内容に基づく加算点

C₂ : 提案内容を実施できなかった場合の加算点

- 計算の過程で生じる端数については、小数第5位以下を切り捨てるものとする。また、算出する違約金は、円未満を切り捨てるものとする。

5-（3）提案内容の保護

入札参加者の技術提案等については、提案内容が提案者の知的財産であることや、入札における競争性確保の観点から、提案内容に関する事項が提案者以外の者に知られることのないように取り扱うものとし、公開することはありません。

このため、契約図書に添付する技術提案等の資料についても、開示請求があっても公開することはありません。

【参考】技術提案の非公表について

- 品確法に基づき、平成17年8月26日閣議決定された「公共工事の品質確保の促進に関する施策を総合的に推進するための基本的な方針について」第23（2）により、『発注者は、民間の技術提案自体が提案者の知的財産であることにかんがみ、提案内容に関する事項が他者に知られることのないようにする等、取り扱いに留意すること』と規定されている。

各入札参加者の「提案内容」は開示しません（知的財産等のため）

また、入札参加者の技術提案等については、その提案内容が一般的に使用される状態になった場合は、その後の本市発注工事において無償で使用できるものとします。

ただし、技術提案書の提出時に、入札参加者より、工業所有権等の排他的権利を有する提案であるとの申し出を受け、かつ、それが認められた場合は、この限りではありません。

5-（4）技術者の配置

本工事における技術評価項目「技術者の能力」において、技術提案書に提示した配置予定技術者の中から1名を、本工事の入札説明書に基づき監理技術者等として配置しなければならず、原則として途中交代はできません。

ただし、監理技術者に関する諸規定に基づき、真にやむを得ない理由等により途中交代が必要な場合は、発注者と協議を行い、工事の継続性・品質の確保等に支障がないと認められた場合に限り交代を認めるものとし、原則として、次の全ての事項を満たす者を配置しなければなりません。

- （1）本工事の入札説明書に定められた配置予定技術者に関する全ての条件を満足すること。（ただし、技術提案書提示の技術者に限らない。）
- （2）技術提案書「技術者の能力」の得点以上を獲得すること。

【留意点等】

- ◇ 「技術者の能力」に関する評価項目で加点評価された場合、落札者となった者には履行義務が生じます。配置技術者の変更にあたり、上記の事項を満たすことができない場合、他の技術提案等と同様、ペナルティが発生します。

6. その他

入札公告時に提示する総合評価関連資料について

総合評価落札方式による一般競争入札を行う場合、通常の入札公告時にも提示される入札説明書などの他に、総合評価落札方式特有の資料として、以下の資料も提示されます。

◆ 総合評価落札方式特有の資料

- ① 技術提案書作成要領
 - ② 技術提案書提出説明書
 - ③ 技術提案書提出様式（提案項目 関連）excel 形式
 - ④ 技術提案書提出様式（企業評価項目 関連）excel 形式
 - ⑤ 入札説明書（総合評価落札方式共通事項）
 - ⑥ 標準案とする提案一覧
- ・その他（注意事項など）

このうち、②については、「技術提案書」作成・提出にあたっての諸条件等が示されており、中には、欠格やペナルティとなる事項についても記載されていますので、熟読した上で、「技術提案書」作成にあたって下さい。

なお、③、④については、「技術提案書」提出様式となりますが、提出部数は、③に係る様式が各4部、④に係る様式が各2部などとなります。詳細は入札公告時に提示する資料をご確認下さい。

上記②～④の資料は、工事によって諸条件等内容が異なります。

入札参加時には、必ず、当該工事の入札公告時に提示する資料を確認するようにして下さい。

◆ 総合評価落札方式に関する問合せ等は...

担当課 : 福岡市 財政局 技術監理部 技術企画課 企画係
T E L : 092-711-4903
E-mail : gijutsukikaku.FB@city.fukuoka.lg.jp

◆ 入札契約手続き全般に関する問合せ等は...

担当課 : 福岡市 財政局 財政部 契約監理課 調査・指導係
T E L : 092-711-4185